



「空の青、うみのあを」

白鳥は哀しからずや空の青

うみのあをにも染まらずただよふ

大好きな歌です。よむたび、一枚の絵のような光景が鮮やかに心に浮かびます。

空の青も、うみのあをも、一個人にとつてははずれ果て無き世界です。大地は広大で、海はどこまでも深く、空は無限に遠く続くように思えます。ですが地球をギュッと縮めて直径1メートルの球にしてみました、最も深いマリアナ海溝や、世界の屋根と言われるヒマラヤ山脈すらも、1ミリメートルに満たない微かな凹凸にすぎません。生命のよりどころである海は、地球の表面を濡らしているだけの薄い膜でしかないのです。

では、空は？宇宙との境界はどこ

うなっているのでしょうか？空はどこまで青いのでしょうか？

蒲郡発！宇宙へのチャレンジ

私たちの住むこの地球環境のはかなさを体感したい・伝えたいとの思いから、昨年スタートした「アノマロ宇宙へ行く！」は、蒲郡から地球を見てもみようは、蒲郡から宇宙に向けて、カメラを搭載した気象観測用気球を打ち上げるプロジェクトです。思いに共感して集まっていたいたいた大学や研究機関、企業の協力で、この夏とうとう、宇宙から地球の映像を持ち帰ることに成功しました！

画像や映像は、9月28日から愛知県全域で始まる「あいちサイエンスフェスティバル」期間中にお披露目の予定です。生命を守る空の青、うみのあをの美しさとはかなさを、ぜひ皆さまと一緒に体感したいと思っています。どうぞお楽しみに！



写真：上空約25,000メートルから見た地球。空の青のはかなさが心にしみみます。

画像・映像のお披露目は、10月6日(日)を予定しています。詳細は生命の海科学館ホームページをご覧ください。



蒲郡の歴史

学芸員 小田美紀

博物館 ☎68・1881

立秋を過ぎても真夏日が続く、国内最高気温41度を記録した今夏ですが、さすがに暑さ寒さも彼岸まで。いよいよ秋祭りの季節が到来し、市内のあちこちで、祭りで奉納する踊りや笛太鼓の練習が行われていることと思います。

さまざまな民俗芸能がある中で「七福神踊り」は、北海道から佐賀までの全国各地で、舞や踊りが奉納されています(『七福神信仰事典』戎光祥出版)。

市内においては、

・三谷町北区

・竹島町東府相

・形原町一区

の各地区で「綱」「杖」「鈴」などの踊りを奉納する「七福神踊り」が受け継がれています。この5地区にお隣の豊川市御津町御馬を加えた6地区の「七福神踊り」は、他

～蒲郡周辺の七福神踊り = 神様たち + 白狐～

とはちょっと違います。

「七福神踊り」は、通常はその名の通り、恵比寿・大黒・布袋・福祿寿・寿老人・毘沙門天・弁財天が踊り手として登場します。しかし、蒲郡周辺では、そこに「白狐」が案内役として加わり、神々を化かして共に踊りつつ、時には見物客にちょっかいをかけたります。

竹島・東府相では、七福神と白狐が勢揃いで踊りますが、他の5地区では、弁財天は神楽堂としてまつられ、六福神(竹谷・町組では毘沙門天も除いた五福神)と白狐が踊ります。八百富神社にまつられている弁財天に遠慮したためであるとか、弁財天は女神なのでその化身として白狐が踊るのだともいわれています。

地元ゆかりの七福神としては、安楽寺(清田町)に祀られている大黒天立像(市指定文化財)が、昭和54年開設の「三河七福神」のひとつに数えられています。また西浦温泉には開湯50周年を記念して設置された七福神石像が点在しています。



七福神踊りの白狐(三谷祭)